

# 発願文

阿弥陀仏の極樂浄土に往生したいという志、また仏が衆生を救済したいと願う文。心をつにして阿弥陀仏による救いを信じてお念仏をとなえます。法然上人が自身の信仰のお師匠様と仰ぐ善導大師の『往生礼讃』の中の日没礼讃偈の末尾の一説です。

ねが

で し とう

みようじゆう

とき

願わくは弟子等、命終の時に

てん どう

のぞんで、こころ顛倒せず、

しゃく らん

しつ ねん

こころ錯乱せず、こころ失念

しん じん

く つう

せず、身心にもろもろの苦痛

しん じん け らく

ぜん じょう

なく、身心快樂にして、禅定に

い

入るがごとく。

しょう じゆ げん ぜん

ほどけ

ほん がん

聖衆現前したまい、佛の本願に

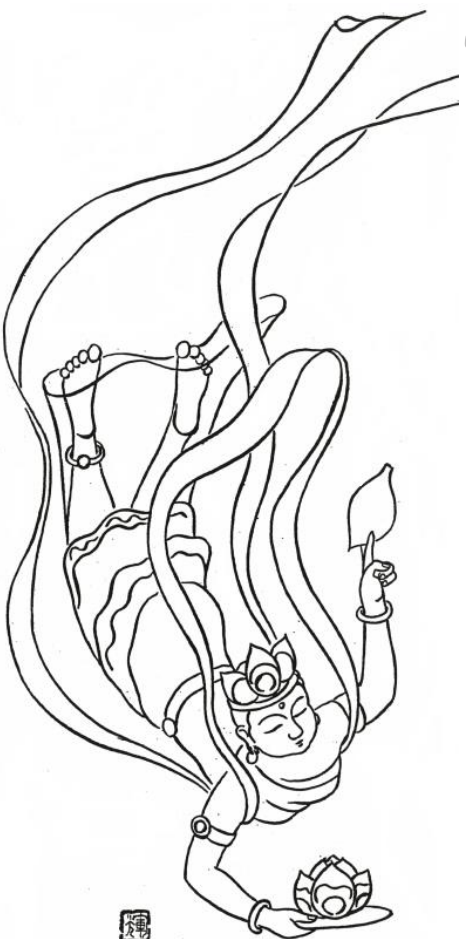
じょう

あ み だ ぶつ こく

じょう ほん おう じょう

乗じて阿弥陀仏国に上品往生

せしめたまえ。



かの国くににいたりおわって六神通ろくじんずう  
を得てえ十方界じつぽうかいに入かえって苦くの衆生しゆじよう  
を救摂くしょうせん。

虚空法界こくうほうかいも尽つきんや、我が願わがんも

亦またかくの如ごとくならんと。

発願ほつがんしおわんぬ。至心ししんに阿弥陀仏あみだぶつ

に帰命きみょうしたてまつる。



為

浄書

令和

年

月

日

願主